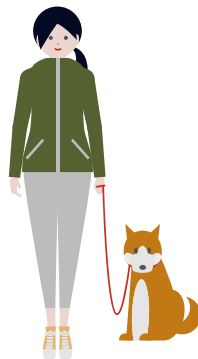
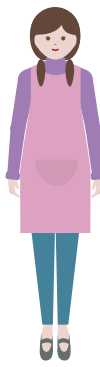
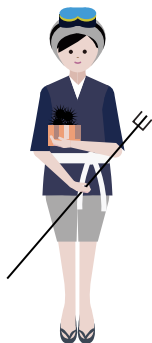


FOR YOU

私たちの想い
自民党女性局



女性局って何？



自民党女性局は こんな活動をしています

自民党女性局は、女性ならではの視点で政治や政策を考え、その実現のために全国の女性と手を携えて行動しています。ここでは特に女性の関心が高いといわれる政策について、「これまで」と「これから」の取り組みを紹介します。

01 子供たちを守る「189番」スタート！ 3ケタ相談番号

平成27年7月から児童相談所の全国共通ダイヤルが、覚えやすい189番（いち・はや・く）になりました。児童虐待防止の活動に取り組む中で「相談窓口の電話番号が覚えにくい」という声が多く聞かれ、それに応えるため番号の短縮化を実現。いつでも、どこでも、子供たちを守れる体制にしました。

02 子育てをやさしく支援

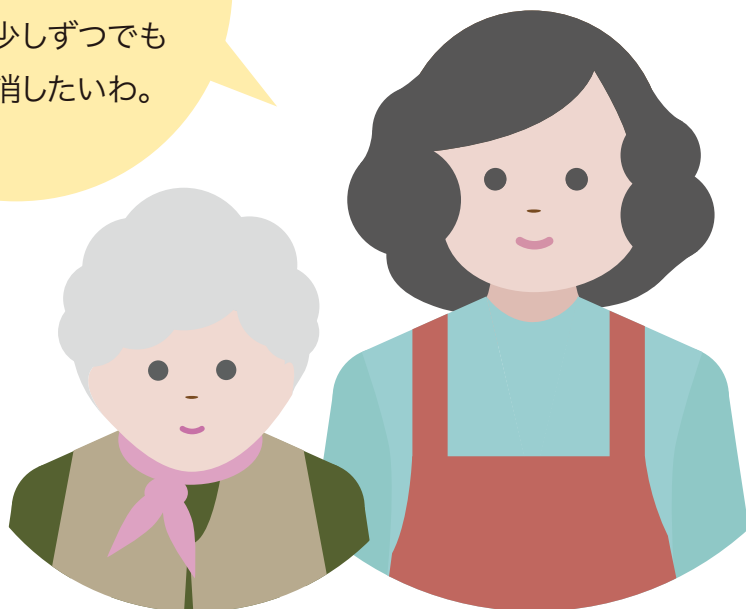
出産一時金制度の充実・こんにちは赤ちゃん事業

出産時の支援策として、例えば出産した女性には出産一時金が支給されます。女性局は、出産費用がなくても安心して子供が産めるよう、行政から病院に直接支払われる仕組みをつくりました。そして「こんにちは赤ちゃん事業」を立ち上げ、子育てする人を孤立させないよう相談体制を整備しました。

03 インターネット犯罪から 女性を守る

携帯電話やスマホの普及により、プライバシーにかかわる写真などを脅しの材料にされ、元交際相手から復讐や嫌がらせを受ける事件が発生しています。女性局は平成26年11月、いち早く「リベンジポルノ防止法」をつくり、被害防止のための啓発や加害者を処罰できる体制を整えました。

いつまでも健康で
幸せに暮らしたい。
でも、介護のことや災害も
あるし…少しずつでも
不安を解消したいわ。



安全・安心な暮らしの実現 「幸齢社会」への挑戦

平均寿命が長くても、課題は健康寿命を何歳までのばせるかにあります。いつまでも健康で幸せに暮らしたいとは誰もが願うことです。高齢という言葉を「幸齢」に換え、どこでも、誰でも、不安なく、安心して暮らせる社会をつくります。

01 65歳になってからも いきいきと活動できる社会を

高齢になっても安全・安心に暮らし、意欲があれば仕事で、地域で、女性が「社会の担い手」として活躍できる社会を目指します。65歳からの人生を幸せに暮らせる「幸齢社会」を実現し、女性のパワーがいつまでも活かされる環境を整備します。

02 女性の負担軽減、 バリアフリー社会の推進

要介護や障害のある方でも安心して地域で暮らしていける社会にしていかなければなりません。その実現に向け、例えば介助する側、特に女性の負担が減るような制度をつくったり、補助器具などの開発を進めます。

03 女性目線で防災・減災対策

災害が発生した時、避難所などでは「女性だからこそその悩み」に苦勞される方も多いと聞きます。防災・減災対策に女性の視点や感性を持ち込み、「もしもの時」に女性が困らず安心していられる環境を整備します。

仕事と家庭を
両立させたい!
安心して働けるの?
子育てはできるの?
自分の時間だってほしい…
そんなの無理かな。



大丈夫ですよ! 皆さんの未来を守ります

結婚したら、女性は仕事を辞めるのが当たり前という時代もありました。これからは職場でも、家庭でも、地域でも、子育てをしながらでも活躍でき、キャリアアップが目指せる時代です。環境と能力に応じて平等に評価される「チャレンジできる社会」の実現に向けて進みます。

01 子供たちの育ちを重視した 保育環境の整備

都市部と地方それぞれの保育のニーズをしっかりと受け止め、子供たちの健やかな成長を支援していく保育環境を整備します。子育て中の女性の孤立を解消するとともに、例えば「働きに出るため保育園に入れたいのに、仕事をしていないと入れない」といった矛盾を解消していきます。

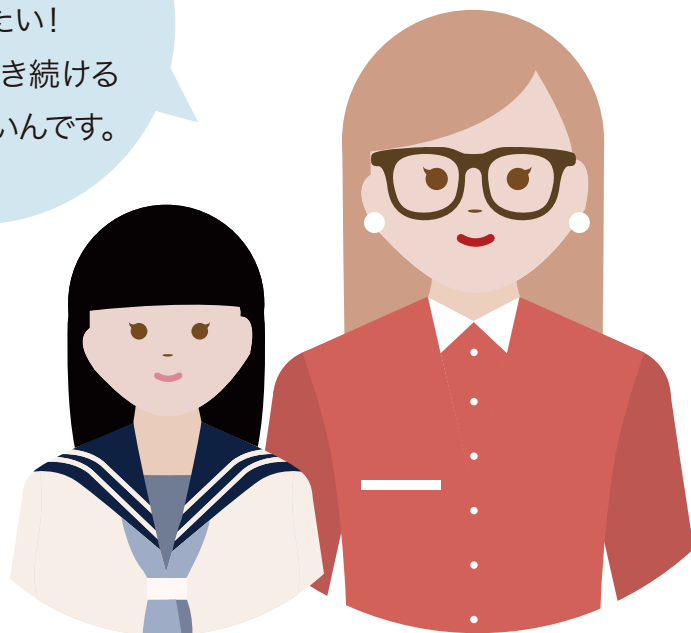
02 子供たちは未来の宝 貧困家庭などを支援します

家庭の貧困は、世代間で連鎖する傾向にあります。例えば、朝食を食べる子と食べない子では、学力に差が出るとの調査もあります。子供たちが健やかな生活リズムの中で、学業や運動機会に臨める環境を整えます。経済的な理由で学業を諦めることがないように、さまざまな対策を展開していきます。

03 ワーク・ライフ・バランスの充実

仕事では残業や夜のお付き合いが大事な時もありますが、自分の時間をきちんと持てるような、効率的な仕事のやり方はもっとも大事です。雇用する側の昔ながらの意識や男性の意識もしっかり変えて、みんなが仕事に、家庭に、趣味に時間が使える時代をつくっていきます。

勉強したいし、
仕事もしたいし、
恋もしたい！
身も心も輝き続ける
女性でいたいんです。



女性の健康がもっと 大事にされる社会を実現

近年、女性の健康特性に基づいた研究や、生涯を通じた対策が必要であることがわかってきました。女性の皆さんが健康を犠牲にしてまで活躍する社会を、自民党女性局は目指していません。さまざまな舞台上キラキラと輝けるよう、女性の健康を守る政策をどんどん進めていきます。

01 女性の健康の包括的支援に関する法律の成立を目指します

女性の健康を支援するためにも、まずは専用の法律が必要です。平成27年10月、厚生労働省に「女性の健康推進室」が設置されるなど、対策はまだまだ始まったばかりです。まず第一に、早期にこの法律の成立を果たし、国を挙げての支援体制の充実を図ります。

02 女性を守る「3K」の推進

女性を守る「3K」とは、「研究」「啓発(教育)」「健診」です。女性の健康特性についてさらに研究を進めるとともに、女性はもちろん、男性の皆さんにも広く理解される環境を整備します。そして、何よりもまず、健診の大切さを広めていきます。

03 もう我慢しないで！健診を

毎月の痛みに悩んでいませんか。親しい人に相談しても「私もそうだったから平気だよ」「我慢すれば大丈夫」と言われてしまうことがほとんどです。月経関連疾患に悩む女性は1,000万人とも言われます。月に4～5日の悩みも年間なら60日。痛み止めの薬も大事ですが、まずは婦人科へ健診に行ってみませんか。

もっともっと
私たちの声を
聴いてほしい!



「女性版ふるさと対話集会」 を全国各地で実施中!!

「ふるさと対話集会」とは、自民党の議員や党員がこちらから一方的に話すのではなく、皆様の声を「聴く」集会です。女性だけの集会だからこそ伺える意見もたくさんあります。全国各地の皆様の率直な声をお聴かせください!

雪国の冬でも
お年寄りや子供が
のびのび活動できる
場所がほしい!

(山形県 60代 主婦)



離島暮らしは
妊娠・出産が
本当に大変。もっと
支援してあげて!

(沖縄県 50代 看護師)



女性だって研究の
仕事を続けたいけど、
休日も研修が多く
介護も子育ても大変。

(岡山県 40代 研究員)



子供に障害がある
けど、小学生に
なると支援が減って
しまう。心配です。

(山梨県 30代 主婦)



実際問題、出産した
月によって育休期間が
決まってしまう。
どうにかならないの?

(北海道 20代 会社員)



就職先が
ブラック企業だったら
どうしよう…
転職しづらそうだし…

(東京都 10代 大学生)



自民党がやるべきことは
まだまだたくさんあります。
これからも皆様に寄り添って
頑張ります!



<http://women.jimin.jp>

自民党女性局
政策パンフレット